

2018年10月7日 新潟福祉大会講演

「視覚障害者への生活支援のあるべき姿ー高知県での実践経験を中心にしてー」

視覚障害リハビリテーション協会
吉野由美子

自己紹介

- 私の年齢は70歳
- 身長124cm
- 体重70kg
- ロービジョン(弱視)
左0.2 右0.02
(矯正視力)
- 大腿骨の発育不全による
肢体障害者・腰椎圧迫骨折により移動時電動車いす・杖を使い分ける



私の履歴

- 1955〈昭和30〉年 教育大学付属盲学校(現筑波大学付属)小学部入学
- 1968〈昭和43〉年 同高等部普通科卒業
- 2年浪人後
- 1970〈昭和45〉年 日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科に初めての点字受験生として入学、1974年卒業
- 1974年から2年間名古屋ライトハウス明の星声の図書館にて中途視覚障害者の相談教務などを行う

私の履歴続き

- 1977年～88年

東京都児童相談センターにて障害児の問題などに関わる。その後日本女子大大学院で社会福祉を専攻、東京都立大学の助手

- 1999年

高知女子大(現高知県立大)に赴任障害者福祉論などを教えると共に、視覚障害リハビリテーションの普及活動に携わる

- 2009年～現在

視覚障害リハビリテーション協会長

視覚リハの普及はライフワーク

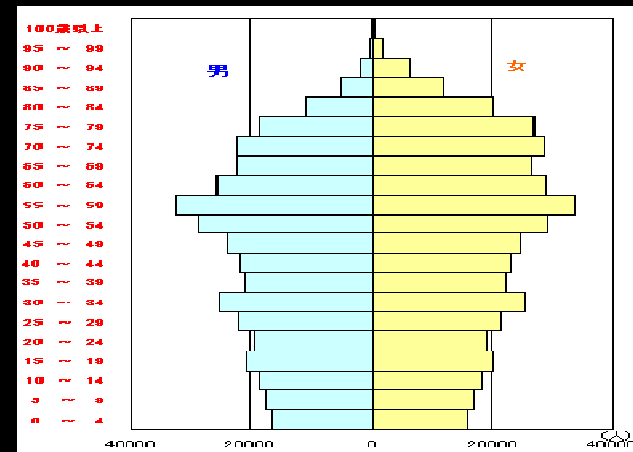
- 1974年名古屋ライトハウス明けの星声の図書館に就職。中途視覚障害者の相談業務に携わる
- 「一人でトイレに行けない」「歯磨きもできない」など、私の知っている視覚障害者とは別の人たちに会ってショックを受ける
- この出会いが視覚リハの普及を私のライフワークに決定する

職員提案前の高知の状況と 職員提案の基礎にある 考え方

2005年の発表スライドを利用

高知県というところ

- 県土の80パーセントが山 中山間地域
- 県人口80万に少し欠ける(右図は年齢別)
- 超高齢化・超少子化
- 日本で1・2の貧しい県



高知県福祉保健担当区域

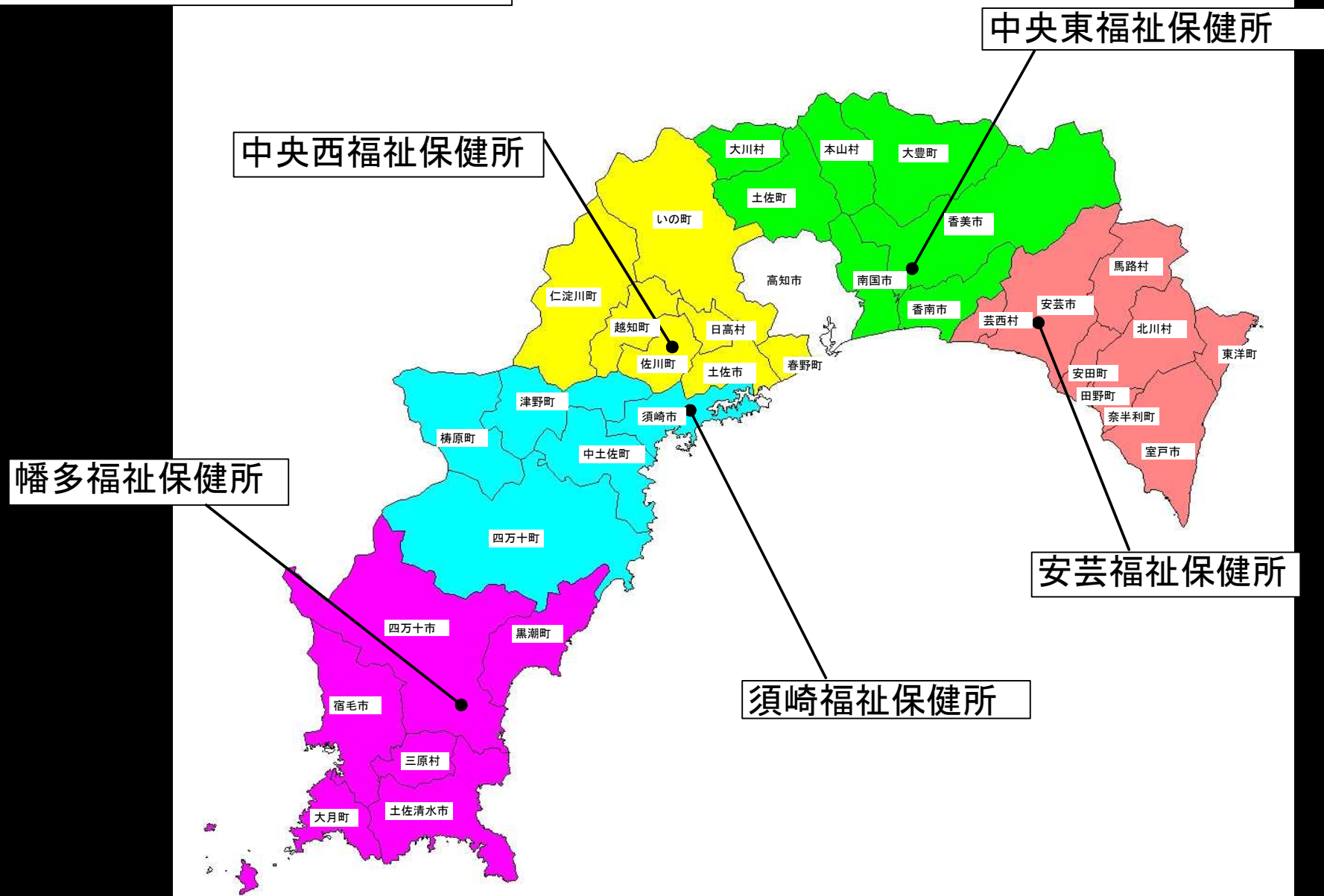


図2. 高知県福祉保健領域管轄地図

高知県の視覚障害者の状況 1

- 身体障害者手帳を取得している

視覚障害者数(年齢別)

高知県全体 3. 641人(100%)

18歳以下 27人(0. 7%)

18～64歳 1. 024人(28. 1%)

65歳以上 2. 594人(71. 2%)

< 2003年3月31日現在 >

高知県の視覚障害者の状況2

- 80%以上が中途視覚障害者で、視覚障害となった年齢が60歳以上が圧倒的
- 高齢に伴う問題、糖尿病性網膜症など視覚障害以外に他に健康上の問題を抱えている人が多い
- 地理的条件・移動の困難性などで孤立化し情報を入手が困難

高知県の視覚障害者の状況

全体数3508人

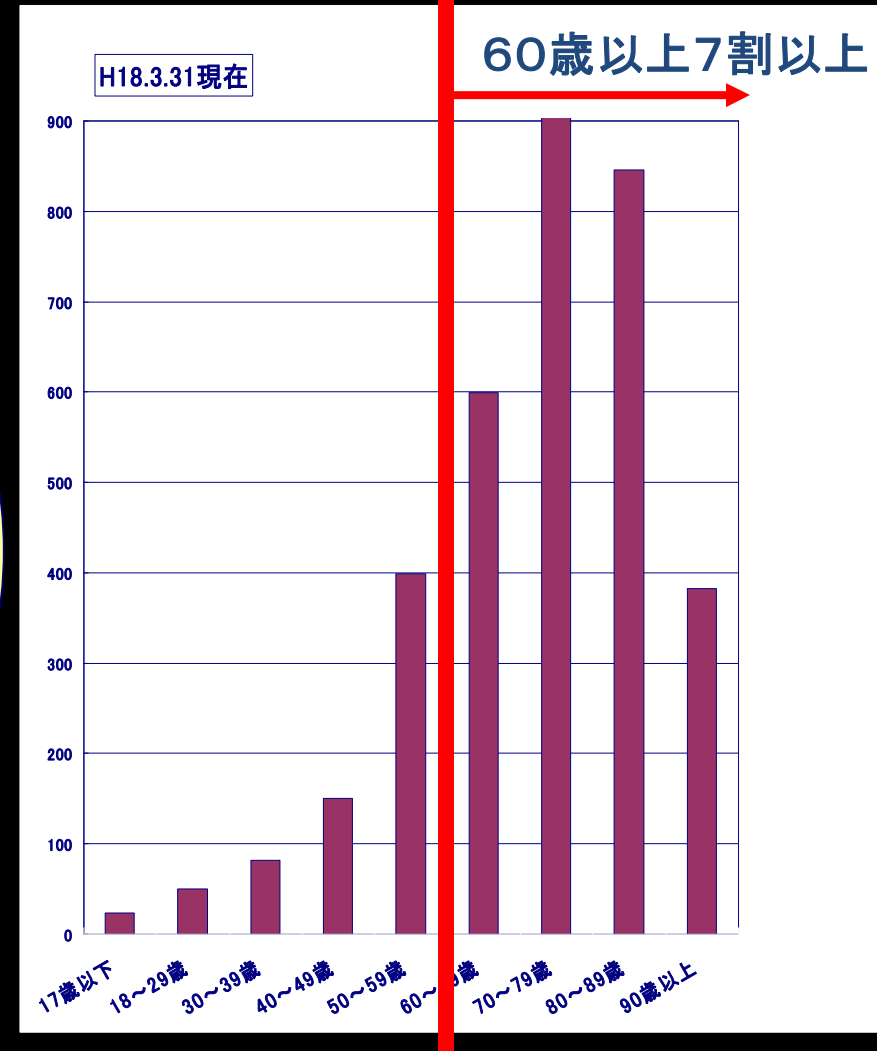
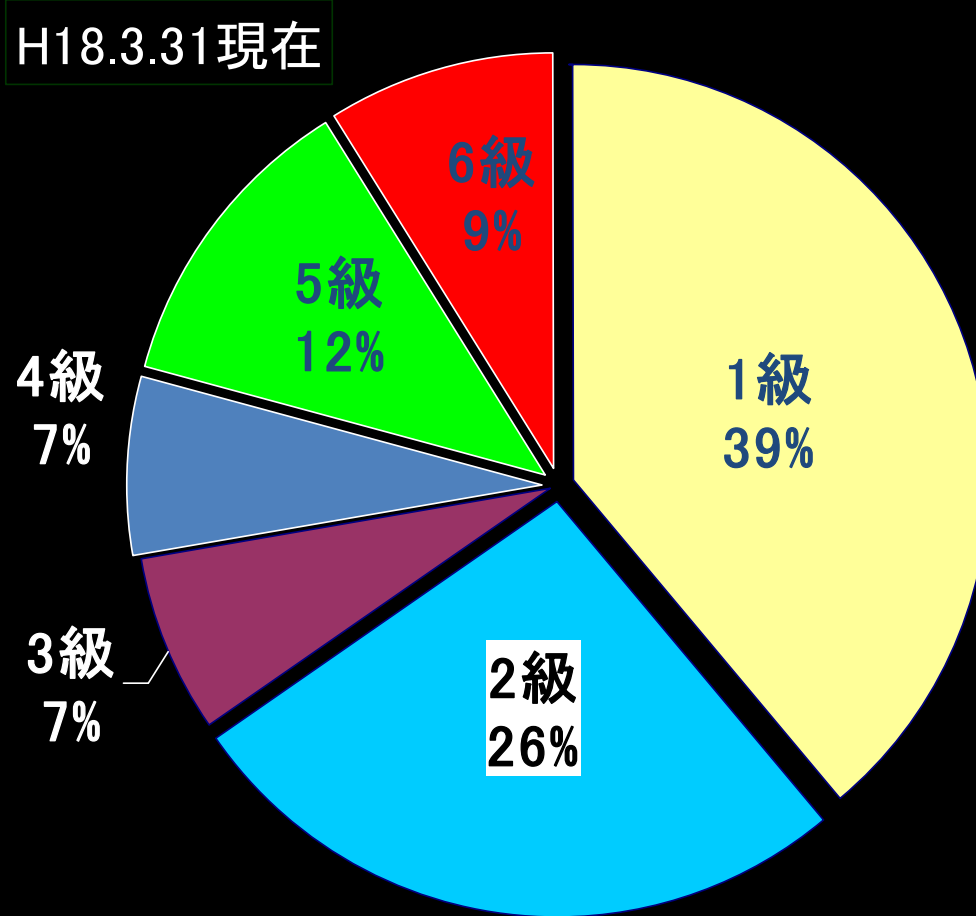


図3. 視覚障害手帳等級別割合

図4. 視覚障害手帳所持者 年齢別人数

高知で1998年までの視覚障害者 生活訓練事業の県予算は20万円

視覚障害リハに対する絶対的情報不足



「視覚障害者になったら何も出来ない」という誤ったイ
メージと視覚障害リハに対する無知



視覚障害リハに対するニーズはないと行政も支援する
専門家も一般の人たちも考えていた

1998年の高知県の事情

- 視覚障害者に対する専門機関は、県立盲学校と市立図書館内点字図書館
- 中途視覚障害者に対するサービスは、身体障害者手帳の交付と補装具の支給
- 視覚障害者「自立支援事業」年間予算20万
- 視覚障害者日常生活訓練指導員（視覚リハ専門家）に対する一般・関係者の認知度は限りなくゼロに近い

高知県で視覚障害リハの土台をつくるには

最低必要なこと

- 視覚障害者のリハに対する啓発
- 視覚障害者日常生活訓練指導員の働く場の確保
- 視覚障害者用便利グッズ・ロービジョンケア関係機器の購入予算の確保と展示場所の確保

福祉サービスを新たに創り出す絶対条件

- 福祉サービスを拡充するには、そのサービスに対するニーズの存在が一般社会に認識されることが不可欠



- ニーズを顕在化させなければ、サービスを拡充することは不可能

ニーズとは？

－掘り起こしの前提となる考え方－

- (1) ニーズはそのニーズに対応するサービスがない時は顕在化しない
- (2) ニーズが本物になるには、そのサービスを必要とする人達がサービスを利用して「良かった」と実感する経験を経なければならない

サービスがこちらから出ていく手法を

- 移動が難しく公共交通機関のない高知県では、視覚障害者の居住しているところにサービスを直接届けるしかない
- 出張機器展示と、訪問リハ（在宅リハ）のシステムを作るしかない。

サービス提供者間の ニーズの掘り起こしとは

- すでに確立されたサービス提供体制の中に未知の専門分野の者が認知されるには、既存の分野の人達が新しく未知の分野の専門家に問題の解決を依頼し、使って見て、効果があったと実感しなければ、新しい分野の専門家は既存のサービス体型の中には位置づけられない

職員提案までの活動経過

●1999年度 吉野由美子 高知県立高知女子大学着任

- ・ 視覚障害者生活訓練指導員仕事開始
- ・ 新聞・ラジオ・テレビなどのマスメディアを駆使しての啓発活動開始
- ・ 訓練事業予算年間80万円

● 2000年度 視覚障害者生活訓練指導員の専任化を目指す

- ・ 県立療育福祉センターの事業として巡回相談開始
- ・ 県が中途視覚障害者ニーズ調査の実施
- ・ 吉野が平成13年度予算に向けての県職員提案事業に応¹募、採択される

職員提案採用と 生活指導員増員の 署名運動

職員提案事業内容1

- 1 盲学校の中に視覚障害者向けの機器を展示する。
- 2 展示した機器を使って、視覚障害リハに関する講座を開く
- 3 県内に出張して機器展示を行う
- 4 視覚リハの先進地域から講師を招き講演会を行う。

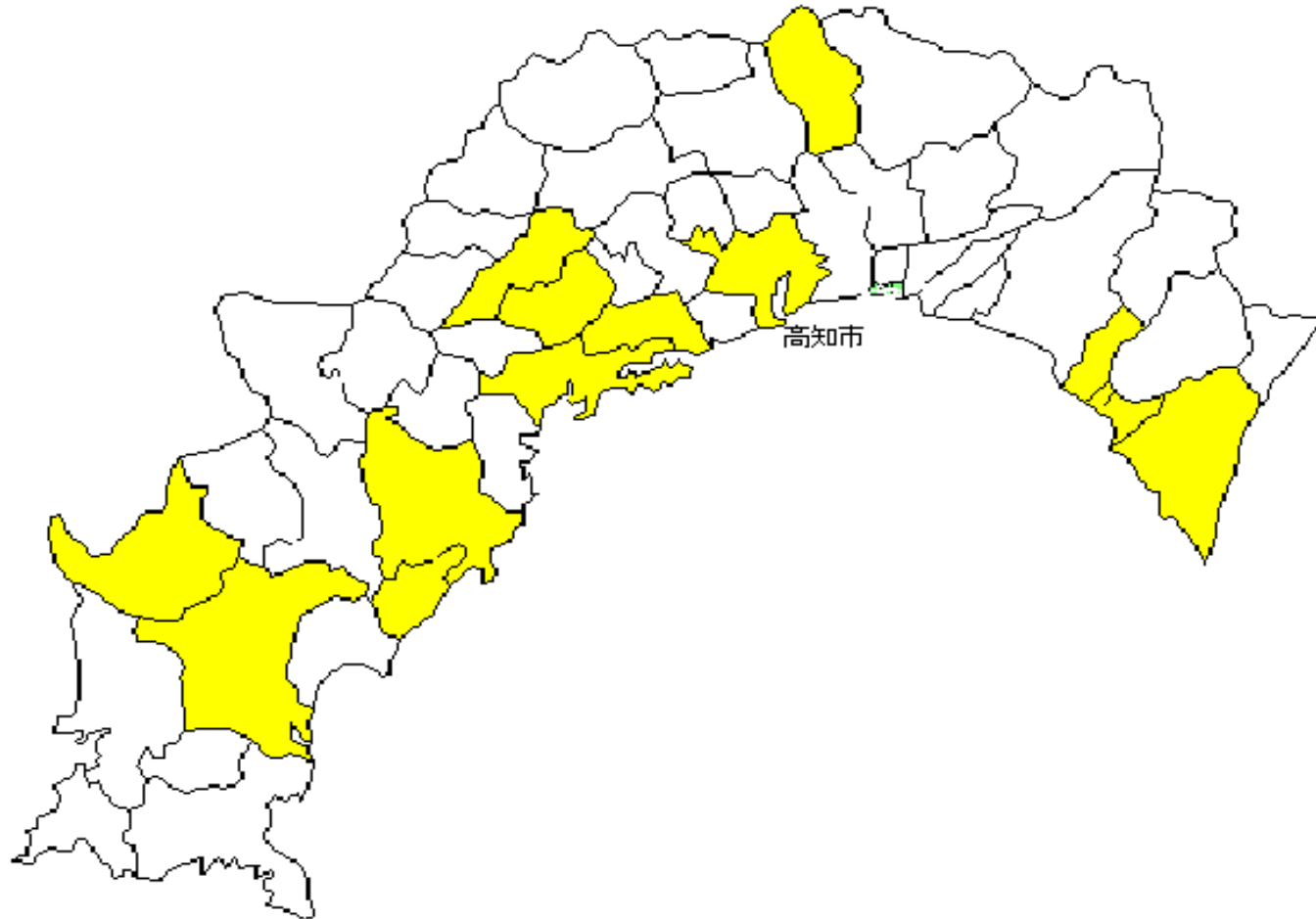
職員提案事業の内容2

- (5) 上記4つの事業などを円滑に進め、相互理解を深めるため、県障害福祉課に調整役をお願いして、連絡会議(事例研究会のような形式張らない会議)を開催する。

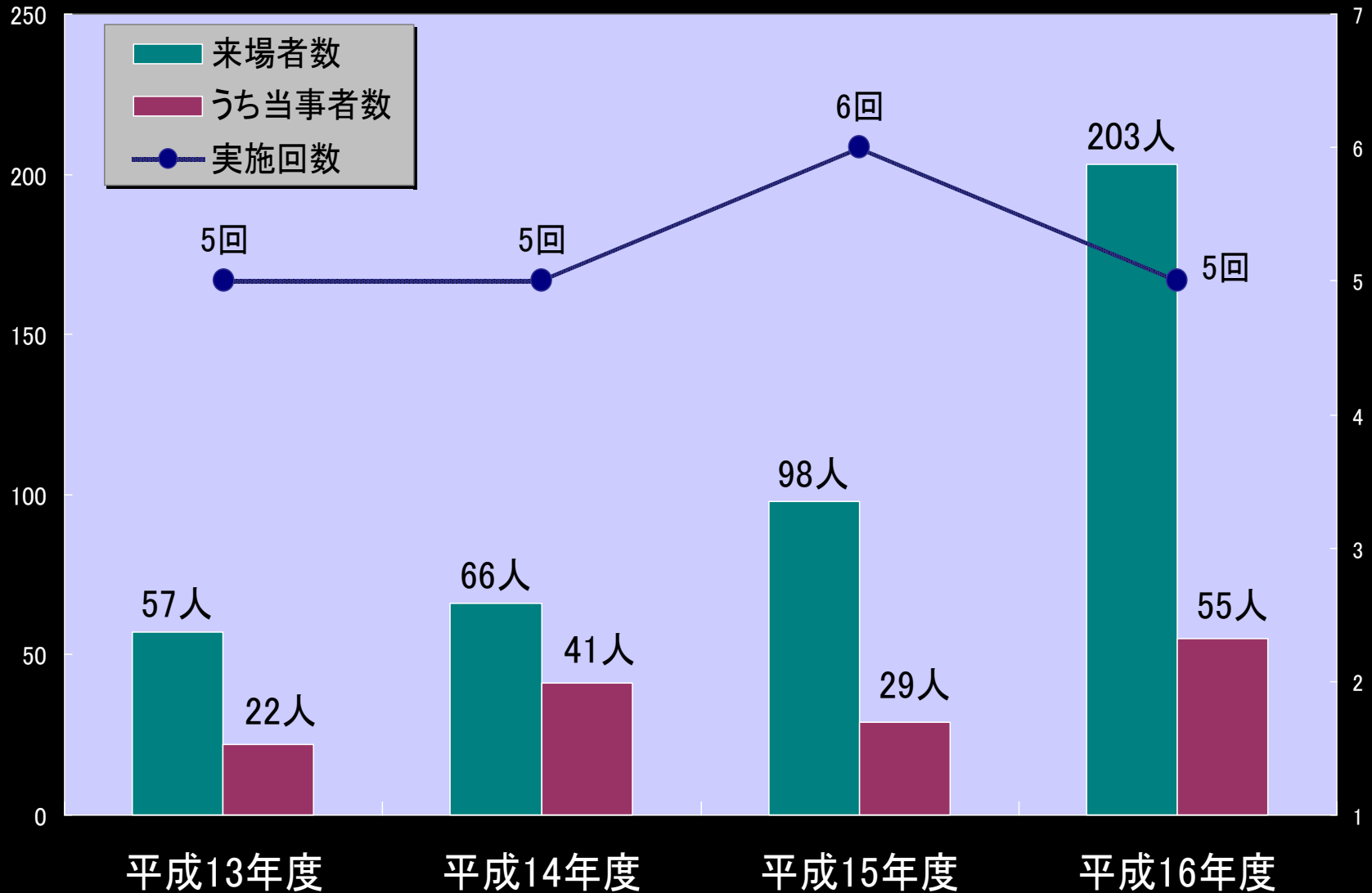


- 視覚障害者生活訓練指導員の人件費を県で一人分保障すること

2001年から4年間で 巡回相談を行った所



巡回相談の状況



出張機器展示会の様子



ルミエールサロン



ルミエールサロン って何？

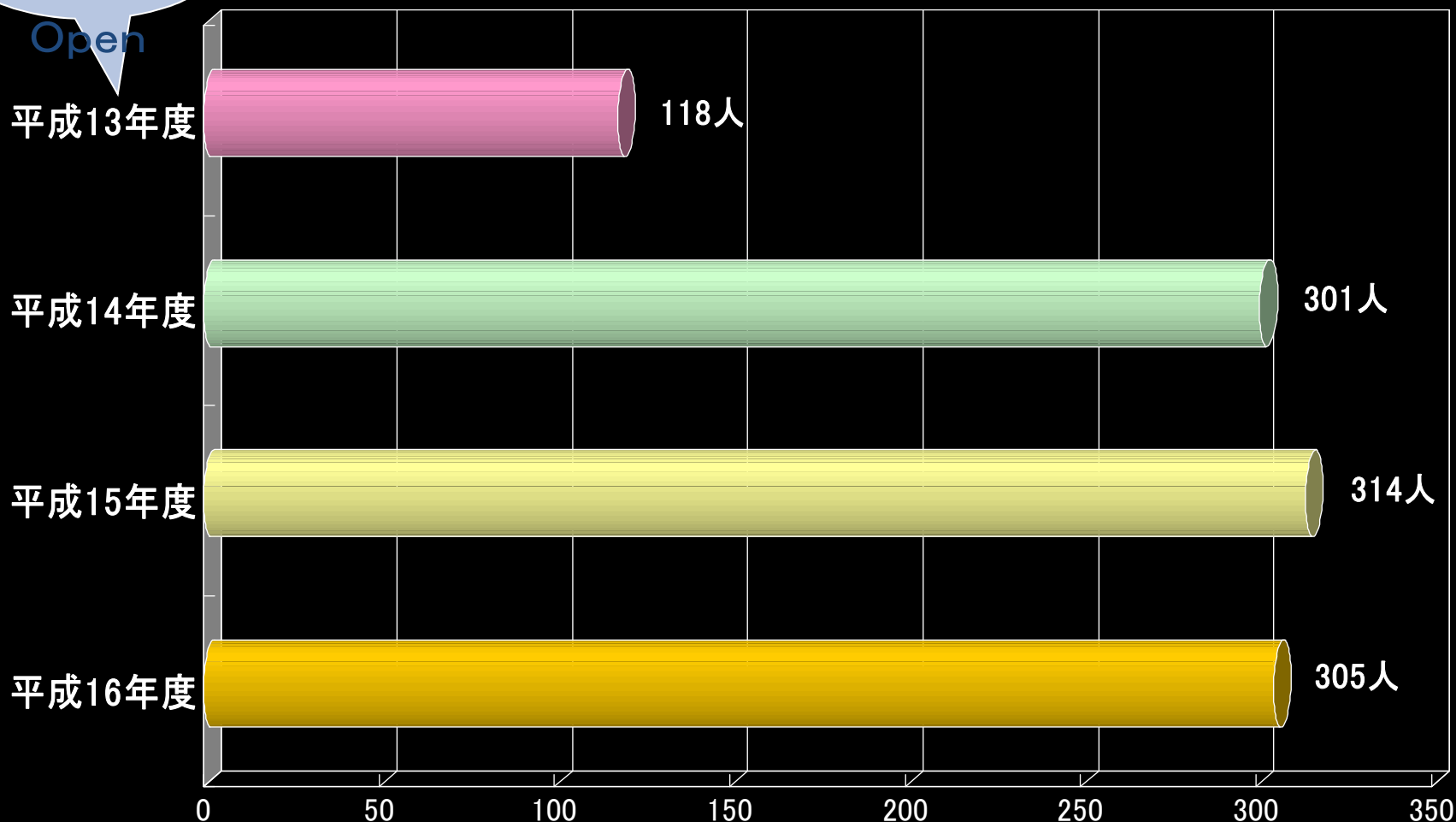
ルミエールサロンの歴史

2000年 9月	高知女子大学社会福祉学部 吉野由美子氏が「福祉と教育の連携」をテーマに「県職員就業事業」に企画を立てて応募する。(企画名:ルミエールプラン)
2001年 1月末	ルミエールプランが採択される。
4月～	予算執行され、展示する機器の選定開始
6月	高知県立盲学校内にルミエールサロン、オープン(盲学校2階) *見学は平日の9時～5時まで、予約制。
2002年12月	ルミエールサロンが2階から1階に移動し、部屋も広くなり、機器展示も充実したものとなる。
2003年 4月	盲学校教育相談部の企画により「ルミエールサロンの日」が設定され、毎月第4曜日は予約なしで、自由に見学できることになる。(後に、第4木曜日に変更)
8月末	吉野由美子氏が「ルミエールプラン2」として、ロービジョン機器の充実を中心とした企画を応募する。
2004年 1月末	ルミエールプラン第2弾が採択される。
4月	「ルミエールサロンの日」を第4木曜日から第3木曜日に変更する。ルミエールプラン2の予算執行され、展示するロービジョン機器の選定をする。
7月	ロービジョン機器(約250万)を購入・展示。 ロービジョンケア講習会(全6回)を開催。

ルミエールサロン来場者数の推移

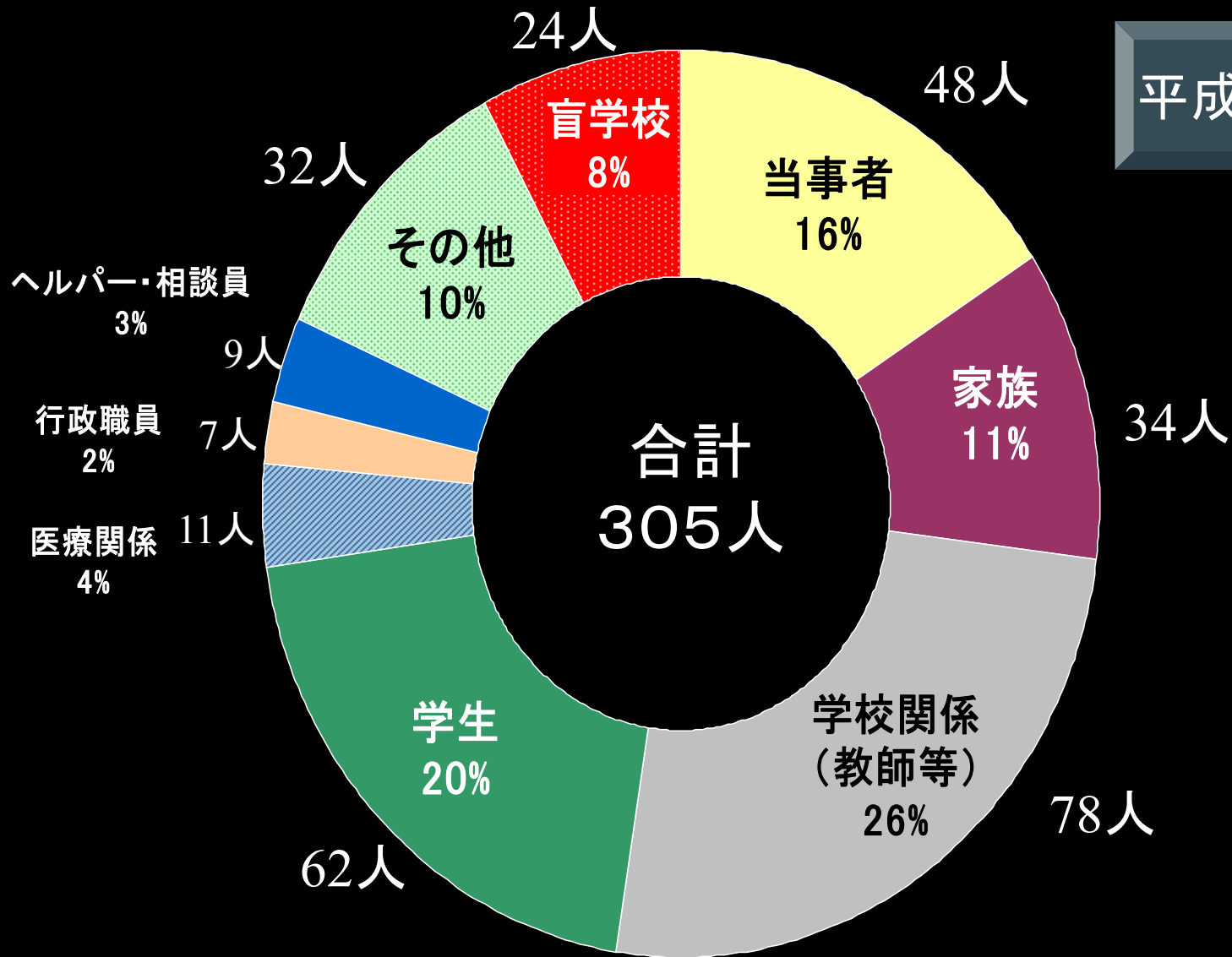
6月15
日
Open

延べ人数



ルミエールサロン来場者の内訳

平成16年度

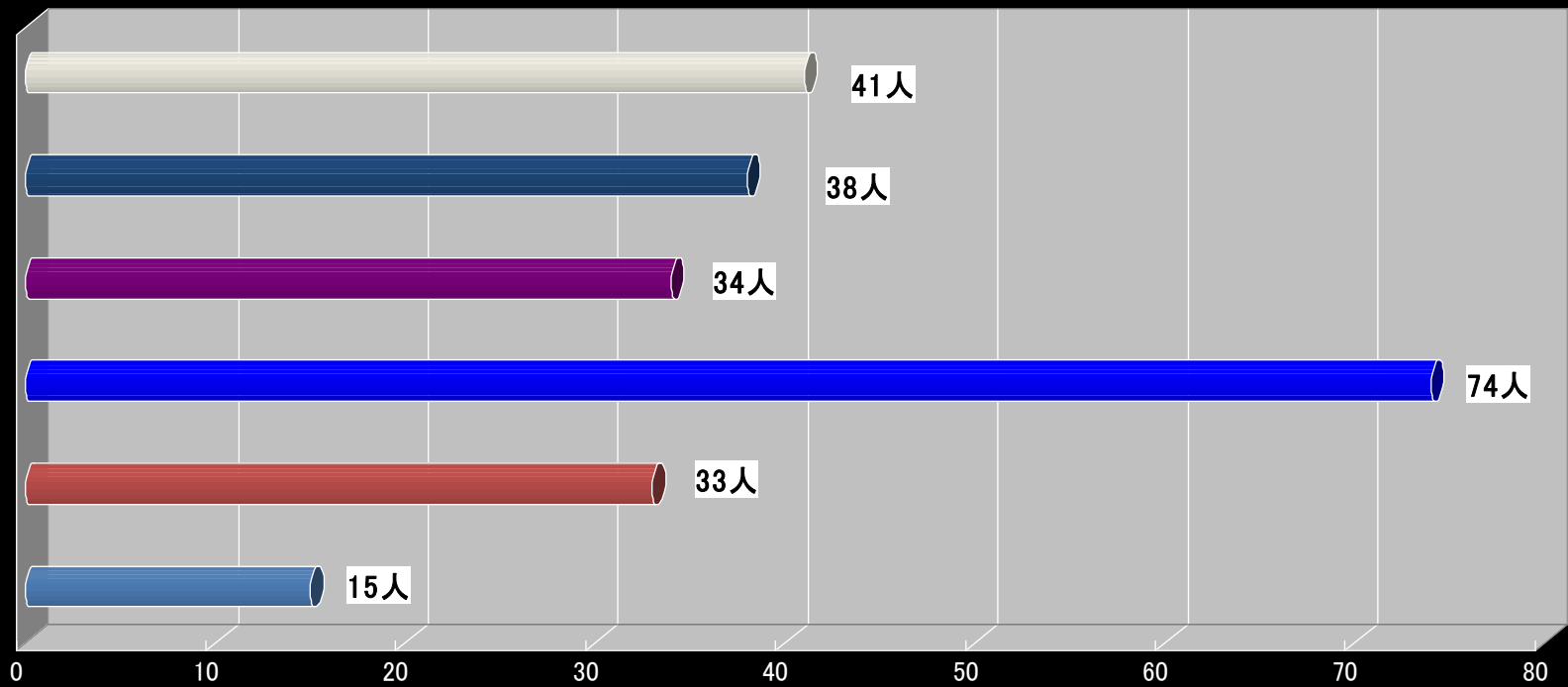


ルミエールプランステップアップ 提案

- 2004年度予算で提案し行った内容
- ロービジョン〈弱視〉のある方に対する理解を深める
- ロービジョン用のトライアルセットを購入し、それを当事者に試用していただき、適切な補助具選びに役立てる。
- ロービジョンケア先進地区から講師を呼び、研修会を行う

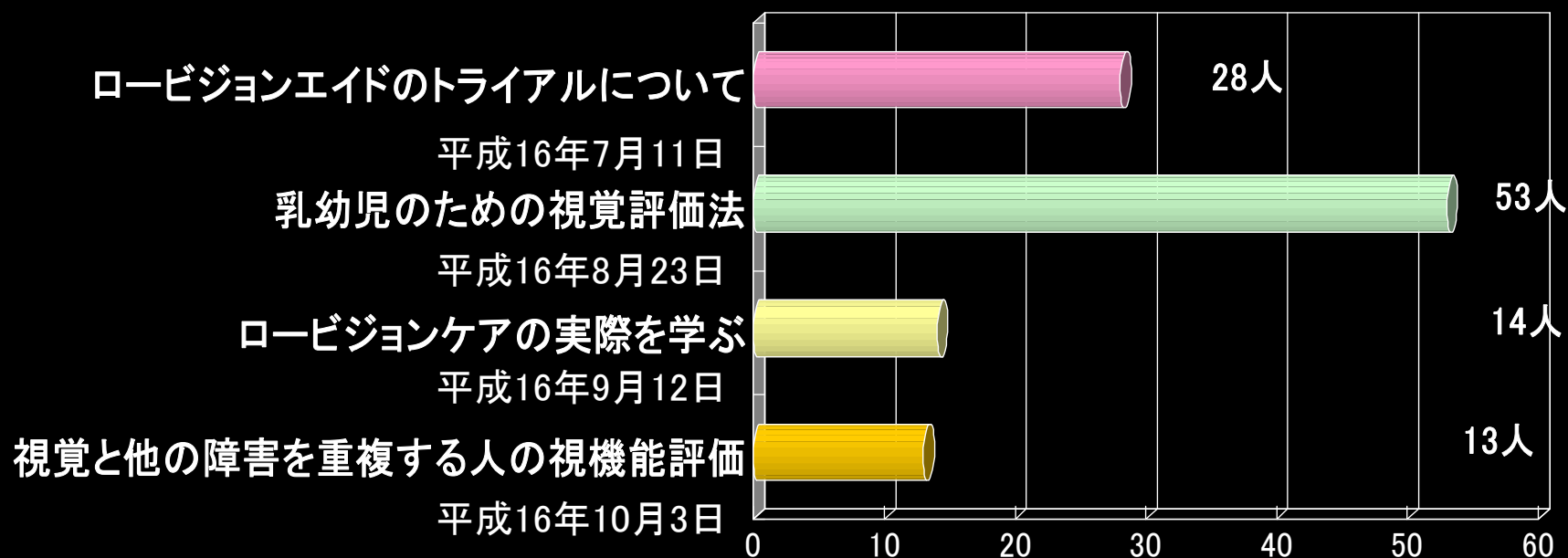
2004年ロービジョンケア講演会参加者数

- ロービジョンケアのすばらしい効果(7/11)
- 視覚と他の障害を重複する人たちのロービジョンケア(7/18)
- 障害を併せもつ子どもたちの自己決定を引き出すための視機能評価と視環境改善(8/8)
- 乳幼児のための視覚評価法(8/23)
- ロービジョンケアの実際を学ぶ(9/12)
- 視覚と他の障害を重複する子どもの発達と視機能評価、遊び指導(10/3)



参加者合計: 235人

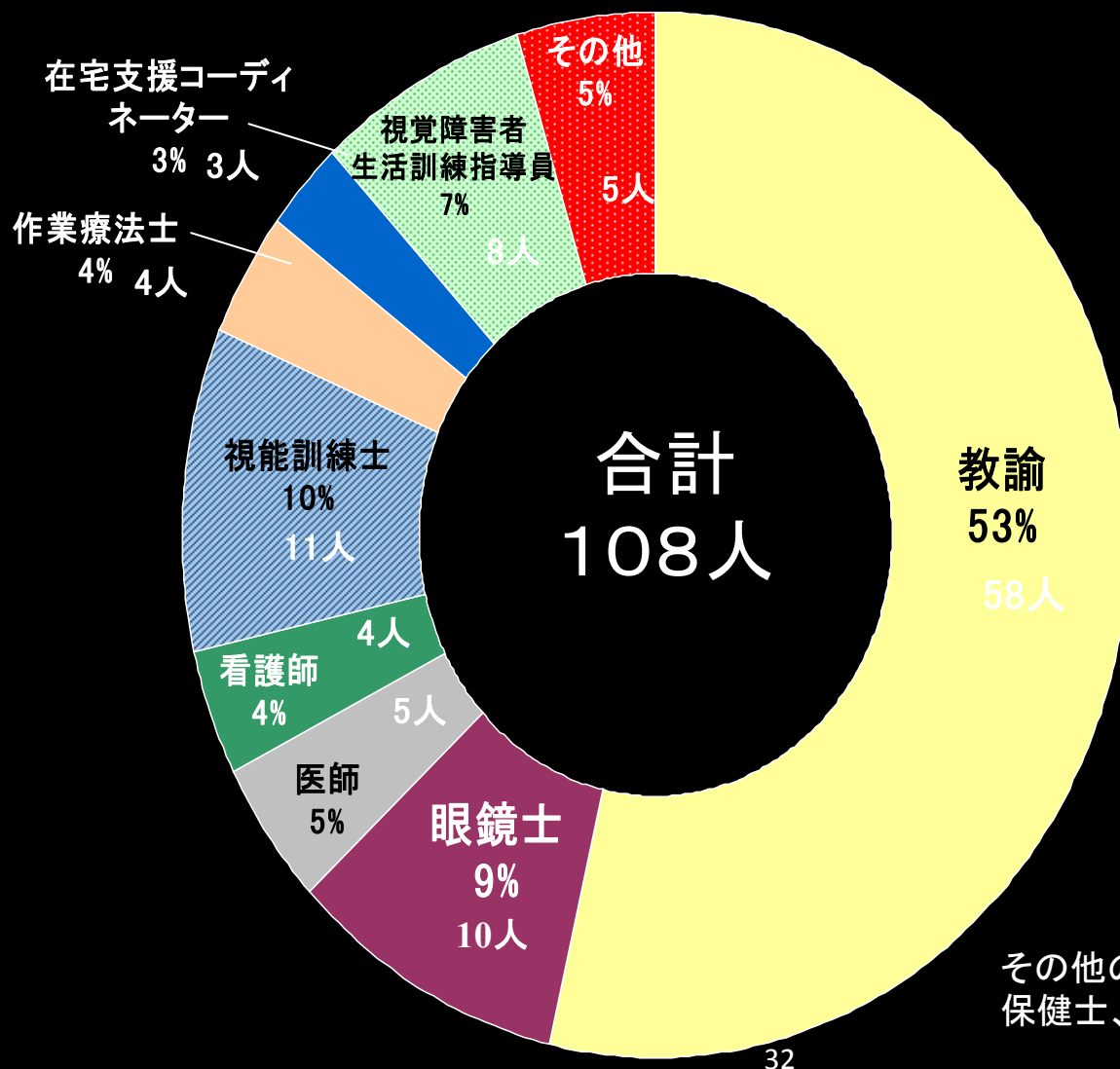
ロービジョンケアワークショップ参加者数



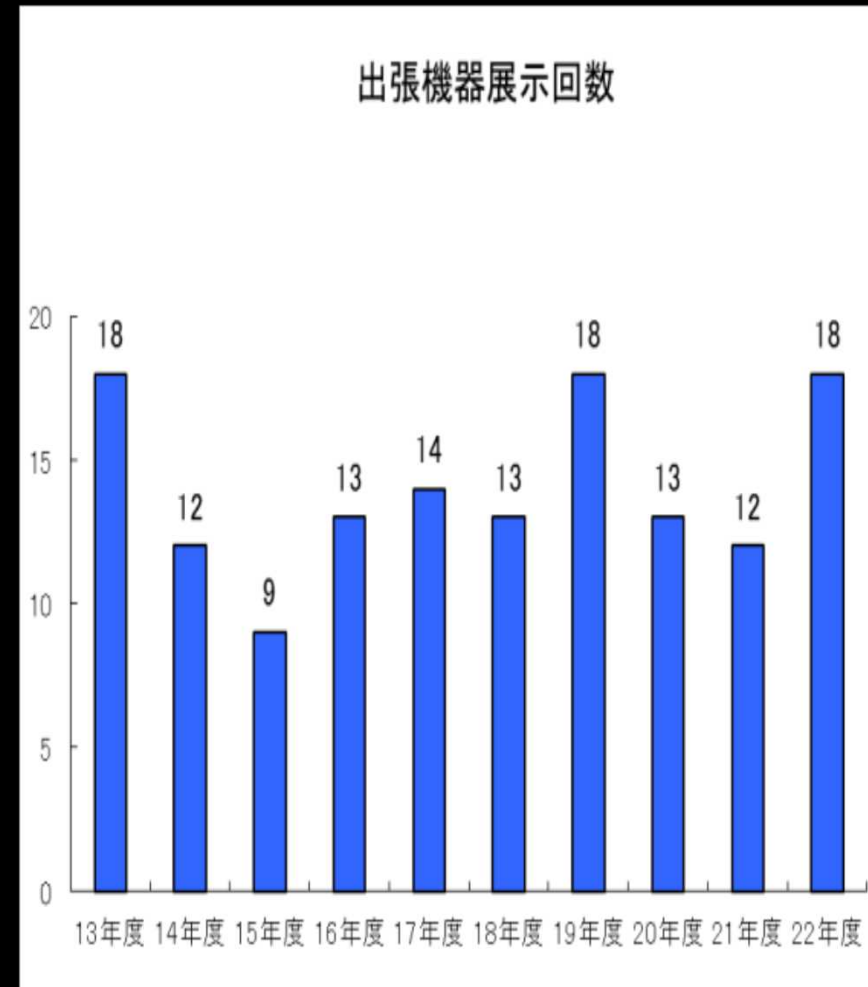
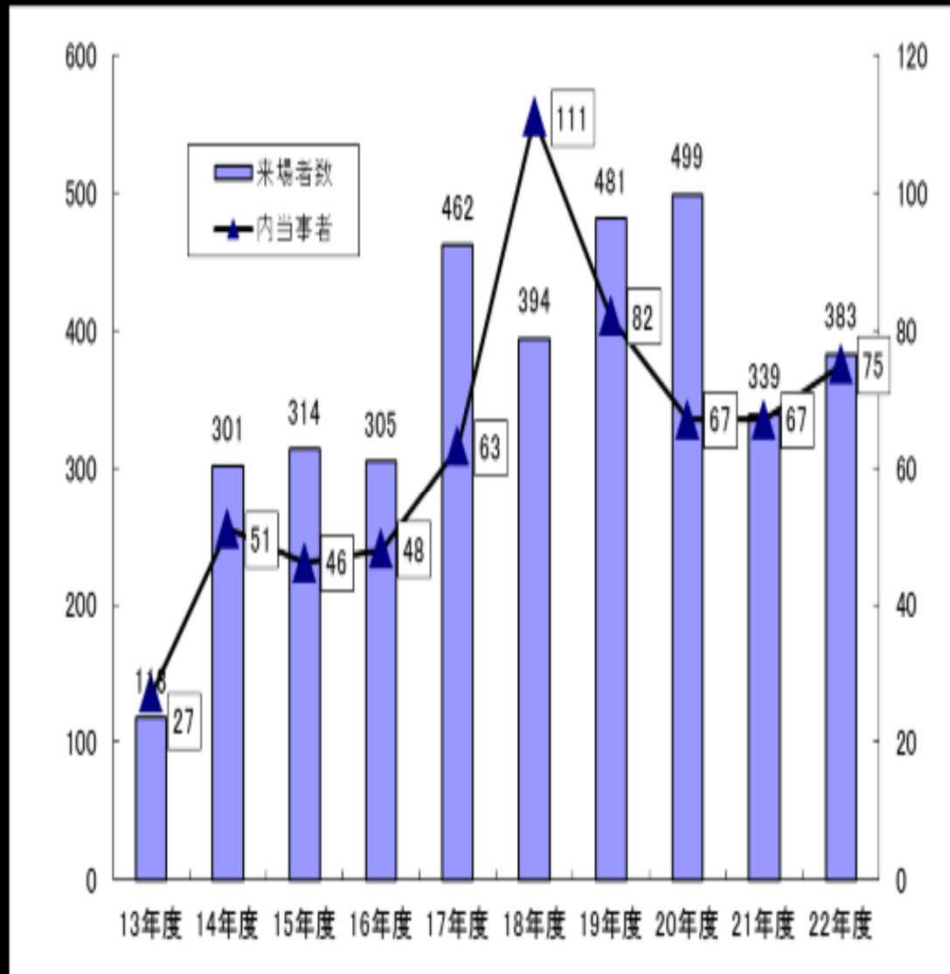
参加者合計: 108人

ロービジョンケアワークショップ 参加者の職種

平成16年度



ルミエールサロンの2001年から 10年間の来場者と出張機器展示



増員を求める当事者の署名運動1

高知新聞 2003年(平成15年)10月8日(水曜日) 地域 1 ☆☆ (24) 朝刊

視覚障害者の自立支援 県は生活訓練員増を

署名を始めたのは「視覚障害者生活訓練指導員増員を切望する会」。自身も視覚障害者として訓練を受けている水田明子さん(六五)と、吾川郡春野町弘岡上二と、森村洋子さん(五九)と須崎市中町一丁目が呼び掛け、九月に発足した。

指導員による訓練は、視覚障害者の生活環境によって多岐にわたる。主婦である水田さんの場合は料理が中心。切る食材とのコントラストをつけるため表裏が白と黒のまな板を用意したり、ガスコンロの上に鍋を真っすくに置く訓練をしたという。

通常の訓練は、職場までの歩行やトイレ、風呂、バス

署名を始めたのは「視覚障害者生活訓練指導員増員を切望する会」。自身も視覚障害者として訓練を受けている水田明子さん(六五)と、吾川郡春野町弘岡上二と、森村洋子さん(五九)と須崎市中町一丁目が呼び掛け、九月に発足した。

指導員による訓練は、視覚障害者の生活環境によって多岐にわたる。主婦である水田さんの場合は料理が中心。切る食材とのコントラストをつけるため表裏が白と黒のまな板を用意したり、ガスコンロの上に鍋を真っすくに置く訓練をしたという。

通常の訓練は、職場までの歩行やトイレ、風呂、バス

「切望する会」が署名展開 高知市以外1人で担当

中央公園で12月19日活動

視覚障害のある人がより自立した生活が送れるよう、歩行などの訓練をする「視覚障害者生活訓練指導員」の増員を県に求める署名活動が展開されている。高知市は独自に指導員一人を職員として置いているが、他の五十二市町村を担当するのはわずかに一人。訓練を希望しながら待機中の障害者も少なくなく、社会参加を広げるためにも、せめて一人の増員をという声が上がっている。

ソコンの使い方など、受ける人に応じて組み立てられる。しかし引越や就職、障害の進行など生活が変われば再訓練が必要。また道路工事など周辺環境の変化によっても新たに訓練しなければならず、ニーズは今後も増え続けると考えられる。

現在、高知市を除く五十二市町村を担当する指導員は、県から委託を受けた「県身体障害者連合会」の職員、別府あかねさん(二七)。過去三年の訓練実績は、十二年度千回、十三年度四千七回、十四年度四千三百回。ニーズが掘り起こされる形で件数が増え、本年度は七月中旬まで三十二回に上った。

ところが別府さんは訓練以外にもバリアフリーモビリティ、ガイドヘルパー養成講習の講師、福祉機器展での相談担当などの仕事を抱えており、訓練希望者と日程が合わないこともしばしば。「進行性の病気の完全な失明する前に訓練を受けたいという一心で申し込んだが、なかなか希望日が別府さんの日程と合わない」(水田さん)。七月中旬時点で、七人の訓練待機者が出た。また訓練を受ける人の男女比はほぼ同数。水田さんと森村さんは「訓練を受けて暮らしが豊かになった。自分でいろいろことができるというのは素晴らしい。せめてあと一人、指導員を増やしてほしい」と訴えている。

署名活動は十月末まで行い、県に提出する予定。十二、十九日には高知市の中央公園北口で街頭署名を行う。問い合わせは同会事務局(088・894・5161)まで。

別府さん(左)に音声が出る電磁調理器の使い方を教わる森村さん(須崎市中町一丁目)



2005年に1名増員
2名となる

2003年10月高知新聞記事

高知県視覚障害者自立支援システム

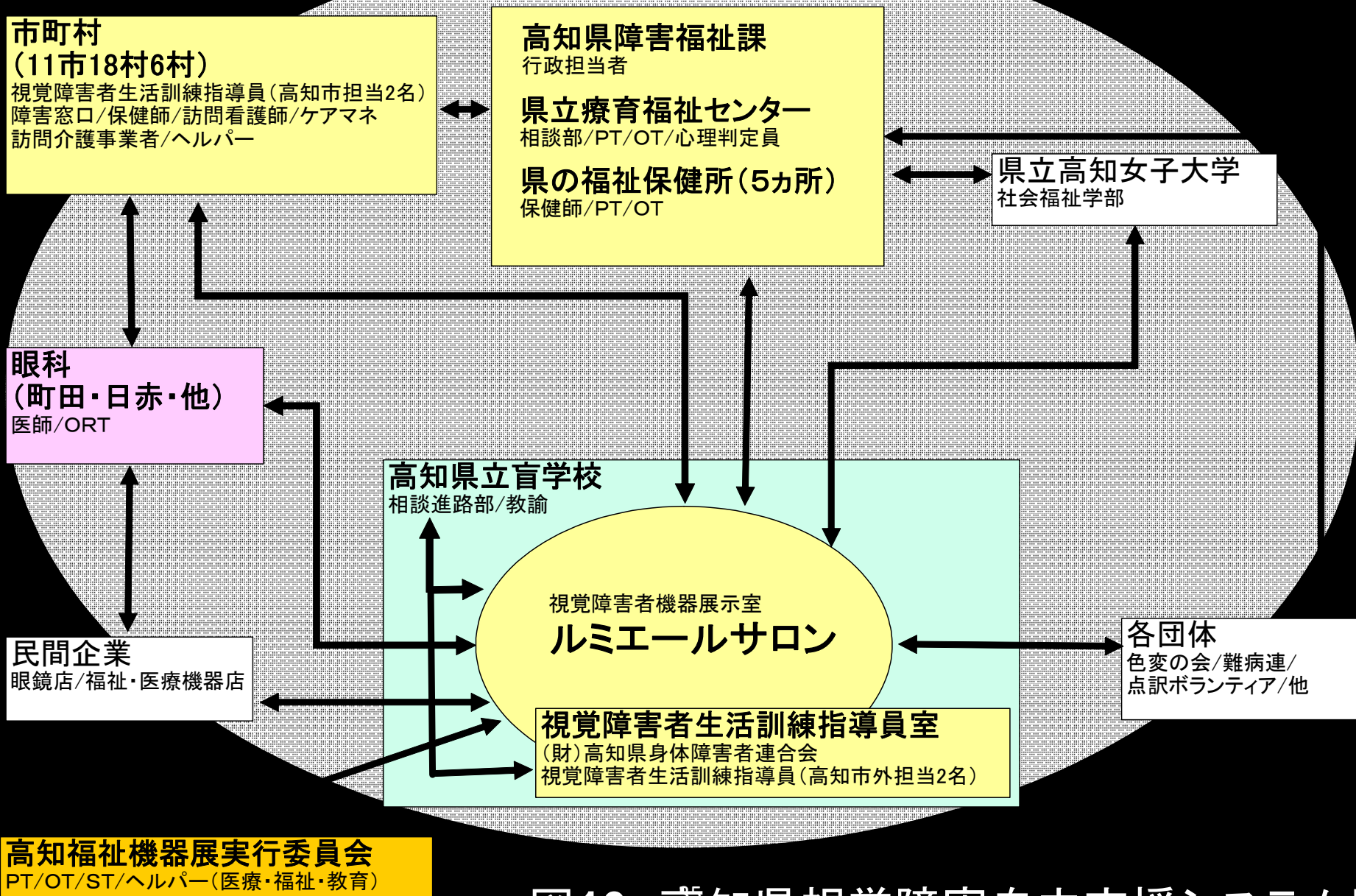


図10. 高知県視覚障害者自立支援システム図

増員のための第二弾署名運動

2016年2月5日高知新聞朝刊
集まった署名を手渡しているところ。

2016年4月より3名体制となった。

県内歩行訓練士1増へ
19年度から5人 利用者「うれしい」

視覚障害者指導
目が不自由な人の歩行や日常生活の訓練に市職員2人、県身体障害者連合会2人の計4人、高知県内視覚障害者（歩行訓練士）が、市の訓練事業による増員され、5人の体制になる。県が4日方針を示した。増員を求めた視覚障害者から「うれしい」「助かります」と喜びの声が上り、指導員不足で、申し込んでからも待たされることもあった。

指導員は現在、高知市職員2人、県身体障害者連合会2人の計4人、高知県内視覚障害者（歩行訓練士）が、市の訓練事業による増員され、5人の体制になる。県が4日方針を示した。増員を求めた視覚障害者から「うれしい」「助かります」と喜びの声が上り、指導員不足で、申し込んでからも待たされることもあった。

利用者は昨年7月、指導員増員や事業の周知を求めて署名活動を開始。街頭やイベント会場でも訴え、年末までに1万3000人分を集めた。

4日、四万十市や安芸市などの利用者ら13人が県庁を訪ね、地域福祉部の井奥和男部長に署名簿を手渡した。「署名の重みを受け止めていきます」と応じた井奥部長は、指導員増員の方針を伝えた。県によると、事業委託先の同連合会が今年4月に女性2人を採用する。2人は交代で大阪の養成校で学び、18年度に1人、19年度からもう1人が指導員として活動する予定だ。15年度末に現職1人が退職するため、増員は19年度以降となる。それまでの間は、業務の見直しや高知市との連携強化で補うとしている。

署名活動の代表で全盲の長崎裕史さん（69）は「高知市には『希望がかなってうれしいです。私自身、指導員と出会って生活がガラッと変わりました。訓練事業を知らず、家に引きこもっている人がまだいると思う。ぜひ周知をお願いしたい」と話していた。

（真崎裕史）

県地域福祉部の井奥和男部長（右）に1万3000人分の署名簿を手渡す長崎裕史さん（県庁）

知事への補足説明内容

- 高知県が高齢化県であることを指摘
- 高齢になると視覚に障害を持つ方が多いことを指摘
- 視覚障害を持つと転倒リスクや鬱になるリスクから寝たきりになること→要介護状態になる
- それを防ぐには視覚リハ専門家を置くことが有効と主張
- 最後に高知県を高齢者視覚リハサービスのモデル地区にと売り込みを行った

まとめにかえて

1 高知での活動から学んだこと

2 皆さんに伝えたいこと

高知の戦略はこれ

- 高知県の住環境やインフラを考える
- 高齢視覚障害者が7割以上ということを考慮してのニーズの掘り起こしはどうか
- 視覚リハについてほとんど知られていない
- ↓
- 訪問リハと出張機器展示でサービスが出て行くこと
- 便利グッズを使って、「見えなくてもできる」という実感を当事者に持ってもらふこと
- 訪問する時には、地域の福祉担当者保健師などと一緒に訪問して、視覚リハの効果を実感してもらふ

新しいものではなく既存の資源 をつなぎ活性化

- 財政が厳しい高知、視覚リハのための新しい建物・設備・人員増を望むことができない



- 視覚障害者の抱える困難を実際に解決する過程の中で、視覚障害者生活訓練指導員の有用性を知ってもらう
- ケースのやりとりを通して連携を構築していく

ニーズの掘り起こし、サービス提供には各分野の連携が必要

- 視覚障害者を最初に発見するのは眼科
- 地域での発見は保健師さんや福祉の窓口
- 高齢視覚障害者に対してはケアマネージャーの力が重要
- 乳幼児・児童では、療育センターなど
- 重複障害の場合、PT・OT・STなど

専門家としての訓練指導員が 必要な理由

- 専門家の定義
- いつでもどこでも、勤務時間であるかないかにかかわらず、自分の専門分野について、学修し、工夫し、その専門分野を極めようとする人たち
- 勤務時間中には、専門分野の仕事に専念する人たち
- 視覚障害者生活訓練指導員の何人が上記のような専門家として仕事をしているのか??

なぜ専門家が必要か1

- 視覚障害は一般に重い障害と認識されている。
- 高齢で中途の視覚障害者も家族も支援する側も「何もできない」とあきらめきっている
情報障害者で、移動も一人でできず、孤立している



あきらめきって無気力
自ら動けない(動こうとしない)

なぜ専門家が必要か2

- 無気力・あきらめている人のニーズの掘り起こしには、多大な時間とエネルギーが必要
- 移動も不自由だから、サービスが出て行く必要あり
- 高齢・中途の視覚障害者のリハや、重複障害者のリハの方法論は確立していないので、常に工夫と学習が必要
- 兼務では、視覚リハに対するニーズの掘り起こしも啓発活動も非常に困難

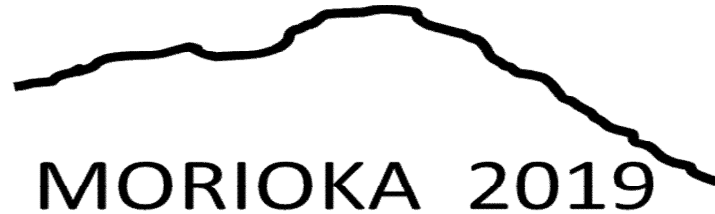
訓練指導員の必置を 実現するには

- 視覚障害単独で働き盛りの方たちを対象とした狭い主張ではなくて、高齢視覚障害の方、重複の障害を持っている方、乳幼児、児童も含めて考える。
- 視覚障害当事者の方たちが、本気で必要性を認識し、運動を行う。
- 広く高齢化問題、他の障害を持つ方たちの問題も含めて考える視点が必要

20年前の高知と違って
新潟にはすでに沢山の資源が
あり、連携が始まっています。
すばらしい戦略の上に立った
成果を期待しています。

視覚障害リハビリテーション 協会について

- 視覚障害者を支援する専門家や当事者が互いの実践を交換し学び合う場所
- 協会ホームページ
<http://www.jarvi.org/>
- 第28回盛岡大会のページ
- http://www.sado-ec.com/z28m000_top.html



テーマ： 視覚リハの最先端と最前線

2019年7月26日（金）～28日（日）

盛岡大会のねらい



大会をきっかけとして、岩手県、あるいは北東北、東北地方における視覚障害リハビリテーションの周知を促進し関係者間のさらなる連携を図ること、そして、充実した視覚リハの実践を根づかせること（最前線の活性化）。

乞うご期待！



- **特 別 講 演**

- シンポジウム

- 就労
- スマートサイト
- 災害時の対応 など



多くの発表と活発な討論が地域の視覚リハを育てます

来年は 盛岡 でお会いしましょう ！

多くの皆さまの参加をお待ちしています !!

視覚リハ大会 盛岡

検索

私のブログ
吉野由美子の考えていること
していること
興味のある方は見てください
<https://yoshino-yumiko.net/>

ご静聴ありがとうございました